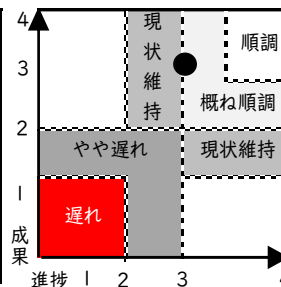


令和5年度 岩見沢市施策評価シート

基本目標	2	みんなが健康で元気に暮らせるまち	評価結果
基本施策	1	健康づくりの推進	
	いつまでも健康で生きがいをもった生活を送ることができるよう、市民一人ひとりのライフステージに応じた主体的な健康づくりを支援するとともに、産学官金が一体となって市民の健康を支える地域社会「健康コミュニティ」を推進します。		
担当課	健康づくり推進課、医療年金課		

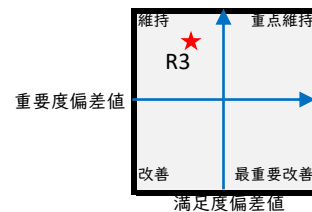


目標達成状況

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	順位 (H30⇒R3)
満足度	38.1	31.7		1位/32施策⇒2位/32施策
重要度	0.396	0.466		25位/32施策⇒29位/32施策
改善度	-22.88	-22.26		32位/32施策⇒31位/32施策

【満足度と重要度による相関図】



- ・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合（数値が大きくなるほど満足度の割合が高くなります。）【0～100】
- ・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化（数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。）【-1～1】
- ・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化（数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。）【2018年調査：-22.88～20.26】

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	評価
健康ひろば利用者数	新規	↗	健康ひろば来場者数の合計	15,910人	6,813人	9,332人	10,836人	A
各種健康教室参加者数	6,915人 (H28)	↗	各種の健康教室参加者数の合計	7,431人	1,243人	340人	2,465人	B★
がん検診受診率	4.85% (H28)	↗	がん検診の対象者のうち、受診者数の割合	4.01%	3.44%	3.69%	3.87%	B★
予防接種実施率	58.9% (H28)	↗	予防接種の対象者のうち、接種者数の割合	59.9%	66.7%	56.4%	59.2%	A
麻しん・風しんワクチン接種率	95.0% (H29)	95% →	接種対象者のうち、ワクチン接種者数の割合	98.8%	94.7%	96.8%	93.4%	D
●成果指標の評価を4区分で評価（平均点）A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年度ともに向上 B:現状値及び昨年度とほぼ同数 C:現状値より向上したが、昨年度より低下 D:現状値及び昨年度ともに低下 A:現状値より低下したが昨年度より向上 C:現状値より低下したが、昨年度とほぼ同数				成果指標評価		3.0	A	

※★印は、コロナの影響後、現状値水準まで回復に至っていないため、変則的な評価を行っています。

分析	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査における「満足度」は相対的に高く、本施策に対する満足度との関連性を示す「重要度」は下位に位置している。改善度は比較的低いが、引き続き施策を推進していく。 ・新型コロナウイルスの影響はあったものの、健康ひろばは人数制限を設けて事業を実施するなど、感染対策を十分にとった上で、健康づくりに必要な事業を一定程度、実施することはでき、前年に比べ健康ひろばの利用者は増加した。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、R3年度は各種教室を中止することが多かったが、R4年度は徐々に再開した結果、参加者数が増加した。 ・がん検診は、昨年より受診数・受診率が増えたが、コロナ禍前には戻っていない。 ・予防接種については、日本脳炎がワクチンの供給不足に伴った接種控えが解消されたため、接種率の向上につながった。
----	--

取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・麻しん・風しんワクチンについては、接種率を年に2回確認し、勧奨を行っている。 ・子宮頸がん予防ワクチンについては、昨年より個別勧奨を再開し、ワクチンの有効性や安全性に関する情報の提供に努め、接種者は増えている。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止により、人数制限をせざるを得ない状況があったものの、感染対策を十分にとった上で事業を実施した結果、前年に比べると、参加者数や受診数が増加した。
-------	--

現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、感染対策をとった上で事業を実施しており、成果指標の評価が難しいものの、健康づくりに関する各種事業の参加者は徐々に回復している。
-------	--

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・各がん検診受診数 9,524人、がん発見者21人(がん発見率0.22%)であり、今後も継続して事業実施していく。 ・新型コロナウイルスの感染症法の位置づけがインフルエンザと同じ5類に移行となったものの、特徴が変わるわけではないことから、これまでと同様に十分な感染対策をとった上で、健康づくりに必要な事業を実施していく。 ・健康診査、がん検診の受診数を増やし、疾病の早期発見を行うことにより、重症化を予防し、健康寿命の延伸を図るとともに、産学官の連携による取組を進め、人もまちも企業も元気で健康な健康経営都市を推進していく。
--------	--

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価																	
		達成度	有効性	効率性															
保健総務管理事業 【健康づくり推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センター利用者数R4 5,453人 ・健康ひろば事業別参加人数R4 健診 2,638人、健診以外の保健事業 4,177人、健康相談 11人、北大COIの日 1,086人、団体利用 624人、休憩・待ち合わせ等 648人 	B	A	B															
健康寿命延伸事業 【健康づくり推進課/医療年金課】	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問指導件数 66人 ・健康相談 556人 ・健康教育 2,465人 ・健康診査 679人 ・肝炎検査 461人 ・骨粗しょう症検査 228人 ・がん検診 9,524人 ・ピロリ菌検査 700人 ・後期高齢者人間ドック助成件数 179件(車椅子人間ドック1件) ・後期高齢者脳ドック助成件数 42件 	C	B	B															
健康経営都市推進事業 【健康づくり推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ・北大COI健康講座実績(R4)実施回数 0回(新型コロナウイルスの影響による) ・健康測定(健康ひろばR4)578人 	B	B	B															
疾病予防推進事業 【健康づくり推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ○各種定期予防接種の実施、受診勧奨 ・ヒブ1,182人 ・小児肺炎球菌1,184人 ・4種混合1,224人 ・2種混合514人 ・BCG301人 ・麻しん・風しん混合 734人 ・水痘 594人 ・B型肝炎852人 ・日本脳炎 3,636人 ・ロタ 678人 ・子宮頸がん 569人 ・季節性インフルエンザ15,829人 ・高齢者肺炎球菌1,027人 ○結核検診 5人 ○エキノコックス症検診 212人 	B	A	A															
新型コロナウイルス感染症予防事業 【健康づくり推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策本部会議 R4年度 8回開催 ・微酸性電解水生成装置の設置(市内39か所) ・抗菌・抗ウイルスコーティング処置(6箇所) 	B	B	B															
<p>●重点事業の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点</p> <table border="0"> <tr> <td>【達成度】</td> <td>【有効性】</td> <td>【効率性】</td> </tr> <tr> <td>A 十分である</td> <td>非常に有効</td> <td>改善の余地なし</td> </tr> <tr> <td>B 概ね十分である</td> <td>有効</td> <td>概ね効率が良い</td> </tr> <tr> <td>C やや不十分である</td> <td>やや有効でない</td> <td>改善の余地あり</td> </tr> <tr> <td>D 不十分である</td> <td>有効でない</td> <td>大きく改善の余地あり</td> </tr> </table>		【達成度】	【有効性】	【効率性】	A 十分である	非常に有効	改善の余地なし	B 概ね十分である	有効	概ね効率が良い	C やや不十分である	やや有効でない	改善の余地あり	D 不十分である	有効でない	大きく改善の余地あり	事業評価	3.1	B
【達成度】	【有効性】	【効率性】																	
A 十分である	非常に有効	改善の余地なし																	
B 概ね十分である	有効	概ね効率が良い																	
C やや不十分である	やや有効でない	改善の余地あり																	
D 不十分である	有効でない	大きく改善の余地あり																	

事務事業一覧

(単位:千円)

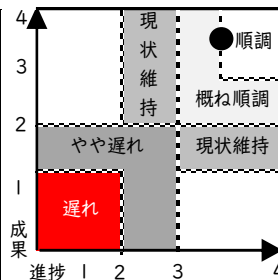
事務事業名	事業概要	事業費		
		上段:事業費 中段:職員数 下段:総事業費(人件費含む)		
		R2実績	R3実績	R4実績
1 保健総務管理事業 【健康づくり推進課】	定期的な健診、気軽に受けられる健康チェック、楽しみながら体験できる健康イベントなどを実施し、市民が健康状態を把握でき、健康相談を受けられる環境を整備。	15,350 (0.8人) 21,110	19,099 (0.8人) 24,699	13,244 (0.8人) 18,924
2 健康寿命延伸事業 【健康づくり推進課、医療年金課】	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康を「まもる・つくる・つなぐ」ため、ライフステージに応じた健康の保持増進や疾病予防のため、各種健康づくり事業や各種健康診査を実施。 ・後期高齢者の疾病の予防・早期発見のため、人間ドック・脳ドック費用の一部助成を実施。 	58,161 (8.5人) 119,361	59,652 (8.5人) 119,152	63,448 (8.5人) 123,798
3 健康経営都市推進事業 【健康づくり推進課】	産学官金の連携のもと、生活・健康づくりのサービスを提供するための基盤構築のほか、北海道大学COIとの連携による「げんき発見ドック」の実施やロとロの周りの筋力を高める「クチトレ」の効果検証、母子健康調査などの取組を推進。	22,378 (2.0人) 36,778	22,271 (2.0人) 36,271	24,239 (2.0人) 38,439
4 疾病予防推進事業 【健康づくり推進課】	疾病・感染症の発症及びまん延を予防し健康な生活を送ることができるよう、定期的な予防接種、結核検診、エキノコックス症検診を実施。	130,444 (1.5人) 141,244	155,592 (1.5人) 166,092	168,282 (1.5人) 178,932
5 新型コロナウイルス感染症予防事業 【健康づくり推進課】	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向け、広報やホームページ、SNSなど、様々なツールを活用し、迅速かつ効果的に周知するとともに、アルコール消毒や微酸性電解水生成装置、抗菌・抗ウイルスコーティング剤等により衛生管理を強化。	△	5,084 (0.0人) 5,084	8,183 (0.0人) 8,183

6	新型コロナウイルス接種対策事業 【健康づくり推進課】	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向け、希望する全ての市民が速やかに接種を受けられるよう、岩見沢市医師会等との連携による個別接種と集団接種の体制を確保し、接種を実施。			727,476 (2.0人) 741,676
---	-------------------------------	--	--	--	------------------------------

【外部評価意見】	
----------	--

令和5年度 岩見沢市施策評価シート

基本目標	2	みんなが健康で元気に暮らせるまち	評価結果
基本施策	2	高齢者福祉の充実	
	高齢者が生きがいをもちながら、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるよう、健康を維持し、自立した生活を送ることのできる環境づくりを進めるとともに、就労や地域活動、趣味などを通じた積極的な社会参加の機会の拡充を図ります。		
担当課	高齢介護課(軽費老人ホーム含む)、健康づくり推進課、包括支援センター		

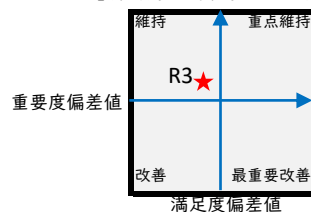


目標達成状況

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	順位 (H30⇒R3)
満足度	23.0	22		6位/32施策⇒7位/32施策
重要度	0.470	0.501		14位/32施策⇒21位/32施策
改善度	-3.35	-7.71		22位/32施策⇒25位/32施策

【満足度と重要度による相関図】



- ・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合(数値が大きくなるほど満足度の割合が高くなります。)[0～100]
- ・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化(数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。)[-1～1]
- ・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化(数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。)[2018年調査:-22.88～20.26]

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	評価
地域包括支援センターにおける相談件数	2,043人 (H28)	↗	市内の地域包括支援センター4か所(R4.10月から5か所)における相談件数の合計	2,878人	3,227人	3,262人	3,654人	A
認知症サポーター数	8,239人 (H28)	↗	認知症サポーター養成講座受講者数の累計	9,953人	10,151人	10,491人	10,778人	A
市民後見人活動者数	4人 (H28)	↗	市民後見人として登録された者のうち、実際に活動している者の人数	23人	20人	23人	24人	A
要介護認定率	21.66% (H28)	↘	[要介護認定者数]÷[第1号被保険者数]×100	22.10%	22.53%	22.71%	22.82%	C
●成果指標の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年度ともに向上 B:現状値及び昨年度とほぼ同数 C:現状値より向上したが、昨年度より低下 D:現状値及び昨年度ともに低下 A:現状値より低下したが昨年度より向上 C:現状値より低下したが、昨年度とほぼ同数				成果指標評価		3.5	A	

分析	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査における「満足度」は相対的に高く、本施策に対する満足度との関連性を示す「重要度」は中位に位置している。改善度は比較的低い。引き続き施策を推進していく。 ・相談件数の内訳について、相談者本人の割合は2018年13.9%⇒2022年25.9%、内容は介護保険サービス66.1%だった。岩見沢市の75歳以上人口や高齢化率は微増しており、今後も相談件数の増加が見込まれる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、認知症サポーター数は例年と比べると増加数の幅は小さくなっている。 ・市民後見人活動者数は現状値・昨年度ともに向上した。 ・要介護認定率については、高齢化に伴い軽度者(要支援1～要介護1)の認定者数が増加しており、年々上昇傾向にある。
----	--

取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・独居(支援者不在)や支援困難事例が増え、認知症の困難事例は認知症初期集中支援チーム、虐待及び権利擁護関係は社会福祉士が対応し、地域ケア個別会議の開催等行っている。 ・「認知症サポーター養成講座」及び「認知症サポーターステップアップ講座」を実施し、認知症理解について取組みを進めた。また、一般介護予防事業や介護予防・生活支援サービス事業等、地域支援事業における各種事業を実施し介護予防の推進に取り組んでいる。 ・市民後見人の養成に加え、「地域包括支援センター」と「成年後見支援センター」の連携を図り、成年後見が必要な方への相談支援や申立て手続き、担い手となる市民後見人への支援など、制度の安定的な運用を図った。 ・介護予防・生活支援サービス事業では、広報周知やケアマネ研修を通し多様なサービスの利用促進を図るなど、介護予防に資する取組みを進めたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け実施回数は横ばいとなっている。 ・地域包括支援センターに配置した認知症地域支援推進員と認知症初期集中支援チームの連携により、認知症の早期診断、早期対応に向けた支援を行うなど、医療と介護の両面からの課題分析を行うための連携を強化する取組みを進めた。 ・成年後見支援センターへの相談件数の増に伴い、市民後見人の活動機会も増加し、市民後見人活動者数は、昨年度から微増している。
-------	--

現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数や困難事例の増加に対応するため、専門職員の確保や増員が必要になると思われる。 ・高齢化や認知症等により判断能力の不十分な高齢者が増加し、成年後見制度の需要は高まっていくと思われる。 ・軽度者向けの介護予防サービスを充実させてはいるが、適切なサービス利用に繋がっていない認定者もいる。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き市民後見人の養成を行い、成年後見人等の担い手の確保を図る。 ・生活習慣病予防と併せて、地域支援事業による生活機能を維持・向上するための事業を実施し、サービスの利用につなげることで健康寿命の延伸、生活の質の向上を図る ・介護予防・生活支援サービス事業の継続、一般介護予防事業では通いの場を増設する等、介護予防の推進に取り組んでいく。 ・引き続き、「認知症サポーター養成講座」による認知症サポーターを養成し、認知症理解について取組みを行う。また一般介護予防事業や介護予防・生活支援サービス事業等、地域支援事業における各種事業を実施し介護予防の推進に取り組んでいく。 ・今後も高齢化が進んでいくことから、認知症サポーター受講修了者への「ステップアップ講座」の実施や、認知症地域支援推進員活動の充実等、認知症施策への取組みを強化していく必要がある。

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価																	
		達成度	有効性	効率性															
高齢者・障がい者の見守り支援事業 【高齢介護課】	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急通報サービス助成件数 170件 ・広報8月号・ホームページ掲載などを実施 	A	A	B															
介護サービス利用者負担軽減事業 【高齢介護課】	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人等による利用者負担軽減に対する補助 60人分 1割負担⇒7.5%負担(本人) ・ホームヘルプサービスを利用している低所得者への負担軽減措置 582人 1割負担⇒5%負担(本人) 	B	B	B															
高齢者のげんきづくり支援事業 【高齢介護課】	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会実施箇所 116か所 ・出席者数 3,604人 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、敬老会の実施は自粛を求め、記念品の贈呈等も敬老会の実施とみなした。 ・老人クラブ数 87クラブ ・会員数 4,066人 岩見沢市老人クラブ連合会が自ら企画し実施した高齢者の健康を「まもる・つくる・つなぐ」事業、ひとつづくり研修事業などへの支援により、老人クラブへの加入に向けた取組みを進めた。 ・高齢者の生きがいづくり推進事業 749人 ・高齢者の健康を「まもる・つくる・つなぐ」事業 191人 ・ひとつづくり研修事業 457人 ・パソコン研修事業 24人 ・特技・技術を活かした社会貢献事業 77人 ・高齢者の健康づくり推進事業 641人 ・シニア交流大会 128人 ・シニア交流ウォーキング大会 91人 ・パークゴルフ大会 329人 ・シニア交流ボウリング大会 93人 ・金婚祝賀事業 504人 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、祝賀会は中止し、記念品を贈呈した。 ・高齢者福祉大会開催事業 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため大会は中止した。 	A	A	A															
特別会計介護保険費(保険) 【高齢介護課/包括支援センター/健康づくり推進課】	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事業の円滑な運営。介護保険制度における資格者管理・介護保険料賦課徴収・要介護認定、介護認定審査会の運営・保険サービスの給付管理など ・地域包括支援センターでの認知症初期集中支援チーム訪問対象実人数7人、虐待・権利擁護対応実人数38人、地域ケア会議開催回数13回行った。 	A	A	A															
市民後見推進事業 【高齢介護課】	<ul style="list-style-type: none"> ・市民後見人養成講座 養成講座修了者12人 フォローアップ講座修了者9人 ・法人後見人支援員登録者数42人 	B	A	B															
<ul style="list-style-type: none"> ●重点事業の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">【達成度】</td> <td style="width: 33%;">【有効性】</td> <td style="width: 33%;">【効率性】</td> </tr> <tr> <td>A 十分である</td> <td>非常に有効</td> <td>改善の余地なし</td> </tr> <tr> <td>B 概ね十分である</td> <td>有効</td> <td>概ね効率が良い</td> </tr> <tr> <td>C やや不十分である</td> <td>やや有効でない</td> <td>改善の余地あり</td> </tr> <tr> <td>D 不十分である</td> <td>有効でない</td> <td>大きく改善の余地あり</td> </tr> </table>		【達成度】	【有効性】	【効率性】	A 十分である	非常に有効	改善の余地なし	B 概ね十分である	有効	概ね効率が良い	C やや不十分である	やや有効でない	改善の余地あり	D 不十分である	有効でない	大きく改善の余地あり	事業評価	3.6	A
【達成度】	【有効性】	【効率性】																	
A 十分である	非常に有効	改善の余地なし																	
B 概ね十分である	有効	概ね効率が良い																	
C やや不十分である	やや有効でない	改善の余地あり																	
D 不十分である	有効でない	大きく改善の余地あり																	

事務事業一覧

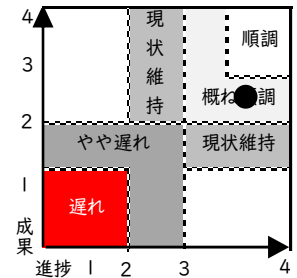
(単位:千円)

事務事業名	事業概要	事業費		
		上段:事業費 中段:職員数 下段:総事業費(人件費含む)		
		R2実績	R3実績	R4実績
1 老人福祉施設入所運営事業 【高齢介護課】	環境上の理由及び経済的理由により、在宅において一人で生活することが困難であると認められる高齢者に対し施設入所措置等を行うとともに、措置に要する費用の支弁等を行う。	3,947 (0.5人)	3,040 (0.5人)	2,733 (0.5人)
		7,547	6,540	6,283
2 高齢者・障がい者の見守り支援事業 【高齢介護課】	高齢者・障がい者により構成される低所得者世帯に対し、民間事業者が提供する緊急通報サービスの利用に要する費用の一部を助成し、自宅で安心して生活ができる環境を確保するとともに、高齢者福祉の向上を図る。	3,736 (0.5人)	3,902 (0.5人)	3,887 (0.5人)
		7,336	7,402	7,437
3 介護サービス利用者負担軽減事業 【高齢介護課】	介護サービスを利用している低所得者を対象に、適正な利用機会の確保を図るため、利用者負担額の軽減を行う。	10,998 (0.0人)	11,009 (0.0人)	10,528 (0.0人)
		10,998	11,009	10,528
4 市民後見推進事業 【高齢介護課】	認知症高齢者や障がい者等の住み慣れた地域での生活を支援するため、成年後見支援センターを運営するとともに、市民後見人を養成。	1,650 (0.2人)	1,650 (0.2人)	2,380 (0.2人)
		3,090	3,050	3,800
5 高齢者のげんきづくり支援事業 【高齢介護課】	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の社会隆盛の先駆者である高齢者を敬い、町会等が開催する敬老事業を推進するため、これに要する費用の一部を敬老会出席者を交付対象として助成。 ・地域の高齢者の社会参加や健康づくりなどを促進する単位老人クラブの活動を支援するため、運営費の一部を補助。 ・老人クラブ連合会が自ら企画し実施する「高齢者の健康をまもる・つくる・つなぐ事業」や、パソコン研修などを行う「ひとづくり研修事業」への助成などにより、高齢者の社会参加や交流を促進し、介護予防及び閉じこもり防止を図る。 	14,555 (2.5人)	16,120 (2.5人)	16,630 (2.5人)
		23,555	33,620	34,380
6 長寿祝金支給事業 【高齢介護課】	長寿を祝福し、敬老の意を表するため、かぞえ年齢99歳の方へ長寿祝金を支給。	2,341 (0.2人)	2,131 (0.2人)	2,521 (0.2人)
		3,061	3,531	3,941
7 老人福祉施設管理事業 【高齢介護課】	高齢者福祉センターふれあい・えみる、北村生活支援ハウス、北村・栗沢デイサービスセンターの管理運営	52,988 (1.6人)	56,269 (1.6人)	65,816 (0.5人)
		64,508	67,469	69,366
8 特別会計介護保険費(保険) 【高齢介護課/包括支援センター/健康づくり推進課】	・介護保険事業の円滑運営。介護保険制度における資格者管理・介護保険料賦課徴収・要介護認定、介護認定審査会の運営・保険サービスの給付管理など	7,895,395 (18.0人)	8,297,353 (19.0人)	8,326,690 (19.0人)
		8,029,958	8,439,775	8,461,590
9 特別会計介護保険費(サービス) 【包括支援センター】	・要支援状態になっても住み慣れた地域で自立した生活を送ることができするためのケアマネジメント業務及びサービスの給付管理。	17,364 (0.0人)	17,407 (0.0人)	14,800 (0.0人)
		17,364	17,407	14,800

【外部評価意見】	
----------	--

令和5年度 岩見沢市施策評価シート

基本目標	2	みんなが健康で元気に暮らせるまち	評価結果
基本施策	3	障がい者福祉の充実	
	ノーマライゼーションの理念のもと、障がいのある人も住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、市民一人ひとりが障がいや障がいのある人に対する理解を深める中で、多様なニーズに対応した相談支援やサービス提供体制の充実を図るとともに、就労支援や芸術文化・スポーツなどの社会参加の支援に取り組みま		
担当課	福祉課、医療年金課		外部評価対象施策

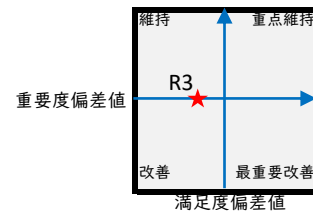


目標達成状況

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	順位 (H30⇒R3)
満足度	15.5	16.5		16位/32施策⇒14位/32施策
重要度	0.430	0.495		21位/32施策⇒22位/32施策
改善度	-1.87	-3.04		19位/32施策⇒21位/32施策

【満足度と重要度による相関図】



- ・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合（数値が大きくなるほど満足度の割合が高くなります。）【0～100】
- ・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化（数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。）【-1～1】
- ・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化（数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。）【2018年調査：-22.88～20.26】

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	評価
障がい福祉に関する相談件数	147件 (H28)	↗	市福祉課窓口などでの相談等の対応件数	275件	395件	916件	1,259件	A
障がい者の雇用率	2.57% (H29)	↗	ハローワーク岩見沢管内での一般の民間企業における障がい者の雇用率	2.68%	2.96%	2.94%	2.74%	C
就労継続支援事業所平均工賃月額	33,080円 (H28)	↗	市内に所在する就労継続支援事業所(A型・B型)の平均工賃月額	29,104円	30,539円	30,440円	1月下旬発表	D
●成果指標の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年値ともに向上 C:現状値より向上したが、昨年値より低下 A:現状値より低下したが昨年値より向上 現状値より低下したが、昨年値とほぼ同数 B:現状値及び昨年値とほぼ同数 D:現状値及び昨年値ともに低下				成果指標評価		2.3		B

分析	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査による重要度の順位が低くなっているが、施策の対象者が限定されることによるもの。満足度は前回調査より上昇しているが、中程度であるため、さらなる改善が求められている。 ・障がい者福祉に対する相談件数は年々上昇し、市福祉課窓口以外に相談窓口を設置し、相談支援体制の強化を図っている。 ・障がい者の雇用率は、コロナ禍の影響により、昨年よりも雇用率が減少しているが、法定雇用率2.3%のほか北海道の雇用率2.44%や全国の雇用率2.25%を上回っている。 ・就労継続支援事業所平均工賃月額は現状値より減少しているが、これは雇用契約を結ばない工賃が安いB型事業所が増加しているためである。また、新型コロナウイルス感染症の影響は減少しつつあるものの、電気料金等の物価高騰などにより経営が困難な事業所が多くなっており、工賃の減少が懸念される。(R4実績はR5.1月下旬発表予定)
----	---

取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者福祉施策の羅針盤となる「岩見沢市障がい者福祉計画(第3期)」及び「岩見沢市障がい福祉計画(第6期)」並びに「岩見沢市障がい児福祉計画(第2期)」の3つの計画に基づき、各種施策を実施した。 ・相談件数の増加やニーズの高度化、多様化に対し、市福祉課窓口では、主に社会福祉士の資格を持つ専門職員1人と保健師1人に対応し、さらに「岩見沢市障がい者相談支援センター」で対応を行い、前年を大きく上回る相談を行った。特に、市役所庁舎外の窓口設置により、潜在的な相談者の早期発見に繋がり、相談支援体制の強化が図られた。 ・障がい者の就労支援に向け、コロナ禍の影響により工賃減少が見込まれる事業所への助成を実施した。 ・就労継続支援事業所の工賃増に向け、障害者優先調達推進方針の策定や事業所が提供できる物品・役務の一覧表を市内の約1,300の企業等に送付した。 ・岩見沢アール・ブリュットギャラリーや健康ひろばでのアール・ブリュット作品の常設展示、いわみざわハート&アート展の開催等を通して、障がいのある人の文化芸術活動を推進した。
-------	--

現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「岩見沢市障がい者福祉計画(第3期)」などの3計画に基づき施策を進める。 ・増加する相談と多様なニーズのほか、困難事例に対応するためには、職員の増員を含め、さらなる相談体制の充実が求められている。 ・コロナ禍の影響がなくなりつつあるが、今後の就労継続支援事業所の工賃増額に向け、市役所内での優先調達の推進だけでは限界があるため、市内企業に対する周知による消費拡大が必要である。
-------	---

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民ニーズに対応するため、相談支援体制の充実強化を図っていく。 ・物価高騰により経営が厳しい就労継続支援事業所の工賃増額に向け、市内企業に対し、周知による消費拡大を継続する。 ・文化芸術を通じた障がいへの市民理解をさらに深めるため、単発イベントの開催にとどまらない取組みをしていく必要がある。 ・障がいの就労は、障がいの者の経済的自立につながるものであり、障がいの者の就労支援に向け、全市的な取組みが必要である。
--------	---

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価																	
		達成度	有効性	効率性															
障害者自立支援給付事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者手帳所持者数 計5,431人 ・身体障害者手帳 3,825人、療育手帳 939人、精神障害者保健福祉手帳 667人 ・障害福祉サービス利用者数(主障がい別1か月当たり利用者数) ・訪問系サービス 157人、日中活動系サービス 849人、居住系サービス 431人、障害児通所支援 428人 ・補装具支給件数 ・購入 140件、修理 109件 ・自立支援医療費対象者数 ・育成医療 11人、更生医療 316人、精神通院医療 1,579人 	A	A	B															
共生のまちづくり推進事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応件数 1,259件 ・日常生活用具給付件数 2,963件 ・通所訓練費対象者数 201人 ・福祉タクシー対象者数 575人 ・視力障害者社会参加助成交付者数 239人 ・特別障害者手当等支給延人数 1,469人 ・軽度・中等度難聴児補聴器購入費等助成件数 4件 ・障がい者が暮らしやすい地域づくり推進事業助成件数 5件 ・手話通訳者派遣 131件 ・障がい者等の災害対策支援事業助成件数 2件 ・いわみざわハート&アート展来場者数 669人 ・岩見沢アール・ブリュットギャラリー来場者数 915人 	A	A	B															
<p>●重点事業の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点</p> <table border="0"> <tr> <td>【達成度】</td> <td>【有効性】</td> <td>【効率性】</td> </tr> <tr> <td>A 十分である</td> <td>非常に有効</td> <td>改善の余地なし</td> </tr> <tr> <td>B 概ね十分である</td> <td>有効</td> <td>概ね効率が良い</td> </tr> <tr> <td>C やや不十分である</td> <td>やや有効でない</td> <td>改善の余地あり</td> </tr> <tr> <td>D 不十分である</td> <td>有効でない</td> <td>大きく改善の余地あり</td> </tr> </table>		【達成度】	【有効性】	【効率性】	A 十分である	非常に有効	改善の余地なし	B 概ね十分である	有効	概ね効率が良い	C やや不十分である	やや有効でない	改善の余地あり	D 不十分である	有効でない	大きく改善の余地あり	事業評価	3.7	A
【達成度】	【有効性】	【効率性】																	
A 十分である	非常に有効	改善の余地なし																	
B 概ね十分である	有効	概ね効率が良い																	
C やや不十分である	やや有効でない	改善の余地あり																	
D 不十分である	有効でない	大きく改善の余地あり																	

事務事業一覧

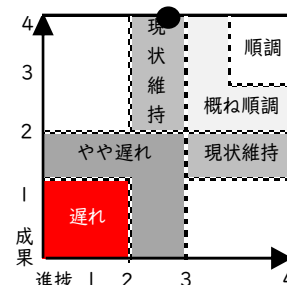
(単位:千円)

事務事業名	事業概要	事業費		
		上段:事業費 中段:職員数 下段:総事業費(人件費含む)		
		R2実績	R3実績	R4実績
1 障害者自立支援給付事業 【福祉課】	障がい者及び障がい児が、その有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう必要な障害福祉サービスを提供し、福祉の増進を図る。	3,245,693 (4.0人)	3,442,480 (4.0人)	3,517,433 (4.0人)
		3,274,493	3,470,480	3,545,833
2 共生のまちづくり推進事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者及び障がい児が、その有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう必要な支援を行うとともに、障がいの有無に関わらず、市民が相互に人格と個性を尊重し、安心して暮らせる地域社会の実現を図る。 ・いわみざわハート&アート展の開催 ・岩見沢アール・ブリュットギャラリーでの常設展示 	132,720 (6.0人)	156,101 (5.0人)	140,142 (5.0人)
		175,920	191,101	175,642
3 重度心身障害者・ひとり親家庭等医療助成事業 【医療年金課】	重度心身障がい者、ひとり親家庭等の母又は父と子の経済的な負担を軽減するとともに、健康の増進を図り、福祉の増進を図るため、医療費を助成。	167,006 (1.0人)	168,175 (1.0人)	170,730 (1.0人)
		174,206	175,175	177,830

【外部評価意見】	成果指標については、就労継続事業所をA型とB型を合わせて平均工賃としているが、より実態や課題を明確化するためにもそれぞれ分けて評価したほうが適切に把握できるため、指標の設定を再考されたい。
----------	--

令和5年度 岩見沢市施策評価シート

基本目標	2	みんなが健康で元気に暮らせるまち	評価結果
基本施策	4	地域福祉の推進	
	支え合いの精神に基づく地域福祉への意識醸成を図るとともに、担い手の育成や、福祉・保健・医療・介護・教育等の分野間の協働による地域福祉を推進します。		
担当課	福祉課		

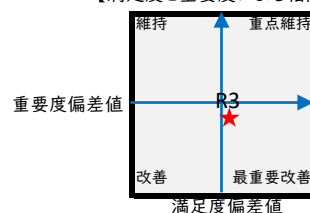


目標達成状況

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	順位 (H30⇒R3)
満足度	11.6	13.6		21位/32施策⇒20位/32施策
重要度	0.485	0.528		11位/32施策⇒10位/32施策
改善度	6.94	4.35		5位/32施策⇒12位/32施策

【満足度と重要度による相関図】



- ・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合(数値が大きくなるほど満足度の割合が高くなります。)[0～100]
- ・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化(数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。)[-1～1]
- ・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化(数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。)[2018年調査:-22.88～20.26]

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	評価
社会福祉協議会の会員数	598口 (H28)	↗	社会福祉協議会における賛助・特別・企業会員の口数合計	605口	599口	584口	624口	A
民生委員・児童委員の充足率	98.30% (H28)	↗	民生委員・児童委員の定員数に対する委嘱された人の割合	96.59%	97.02%	95.74%	96.17%	A
ボランティア登録団体数	26団体 (H28)	↗	市内で活動する福祉団体・NPO等の団体(ボランティアセンター登録団体)数	29団体	26団体	26団体	27団体	A
●成果指標の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年度ともに向上 A:現状値より低下したが昨年度より向上 B:現状値及び昨年度とほぼ同数 C:現状値より向上したが、昨年度より低下 現状値より低下したが、昨年度とほぼ同数 D:現状値及び昨年度ともに低下				成果指標評価		4.0	A	

分析	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査における「満足度」は相対的に中程度にあり、本施策に対する満足度との関連性を示す「重要度」は上位に位置している。改善度は比較的高く、これまで以上に施策の推進が求められる。 ・岩見沢市社会福祉協議会の会員数は昨年度よりも増加している。 ・ボランティアセンター登録団体数は現状値、昨年度からわずかに増加している。 ・民生委員児童委員は3年の任期途中に体調不良等による退任があることから、欠員補充の委嘱もしているが、充足率は横ばいとなっている。
----	--

取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、岩見沢市社会福祉協議会独自のPR活動やボランティア関連事業が制限されたことで、減少傾向にあったが、徐々に活動を再開しており、会員数及びボランティア数は増加している。 ・民生委員・児童委員が活動しやすいよう、活動に際してのQ&A集の作成・配付や、連絡相談体制の構築を行っている。令和4年12月の一斉改選にあたっては、町会向けの説明会を実施するなど町会への働きかけを行い、推薦を促した。
-------	--

現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの高齢化に伴い、福祉活動の担い手の育成・確保やボランティア団体の更なる活性化が課題。 ・令和4年12月の一斉改選後約1/4の民生委員・児童委員の交代(新任委員として委嘱)があり、新任委員がスムーズに活動できるよう研修会を実施するなどの支援を行ったが、14人の欠員があり、欠員数が10名から14名に増加しているため、なり手不足が課題である
-------	--

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動の中心的役割を担う社会福祉協議会の体制の強化と活動の充実に向けた実施事業の精査を進めており、引き続き支援を行う。 ・民生委員の欠員解消のため、引き続き町会・地域への働きかけを行う。
--------	--

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価		
		達成度	有効性	効率性
社会福祉協議会運営補助事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢市社会福祉協議会の安定的な運営と事業の充実のため、補助金を交付 法人管理運営事業 17,909千円 岩見沢広域総合福祉センター管理運営事業 18,199千円 地域づくり推進事業 23,982千円 	B	B	B
民生委員児童委員協議会運営費交付等事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の活動経費や、民生委員児童委員協議会の運営費等を交付 25,028千円 ・相談・支援件数 3,606件 ・訪問活動回数 25,683回 	C	B	C
●重点事業の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 【達成度】 【有効性】 【効率性】 A 十分である 非常に有効 改善の余地なし B 概ね十分である 有効 概ね効率が良い C やや不十分である やや有効でない 改善の余地あり D 不十分である 有効でない 大きく改善の余地あり		事業評価	2.7	C

事務事業一覧

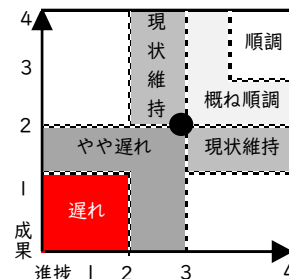
(単位:千円)

事務事業名	事業概要	事業費		
		上段:事業費 中段:職員数 下段:総事業費(人件費含む)		
		R2実績	R3実績	R4実績
1 社会福祉総務運営事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢市戦没者追悼式の開催、福祉関係4団体に対する運営補助、社会福祉法人の監督及び指導監査等、各種社会福祉事業を総合的に推進することを通じて地域福祉の増進を図る。 	3,681 (6.0人) 46,881	3,115 (7.0人) 52,115	4,119 (7.0人) 53,819
2 社会福祉協議会運営補助事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・岩見沢市社会福祉協議会の安定的な運営と事業の充実のため補助金を交付 	62,433 (0.0人) 62,433	60,527 (0.0人) 60,527	60,090 (0.0人) 60,090
3 民生委員児童委員協議会運営費交付等事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員の活動経費や民生委員児童委員協議会の運営費等の交付 	25,044 (2.0人) 39,444	22,228 (1.0人) 29,228	21,998 (1.0人) 29,098
4 健康と福祉を高める推進事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と福祉を高める市民会議主催による各種事業の実施 ・ウォーキングのつどいの開催 ・健康と福祉を高めるセミナーの開催 ・救急救命講習の開催 	639 (0.0人) 639	536 (0.0人) 536	753 (0.0人) 753
5 災害遺児手当支給事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故、労働災害等の不慮の災害により父母のいずれかを失った遺児を扶養している者に手当を支給 	144 (0.0人) 144	154 (0.0人) 154	154 (0.0人) 154
6 災害救助事業 【福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や豪雨等の自然災害や火災により被害を受けた市民やその遺族等に対し、弔慰金の支給や見舞金の交付等を行う 	0 (0.0人) 0	12,560 (0.0人) 12,560	20 (0.0人) 20

【外部評価意見】	
----------	--

令和5年度 岩見沢市施策評価シート

基本目標	2	みんなが健康で元気に暮らせるまち	評価結果
基本施策	5	社会保障制度の適正な運営 誰もが健康で安心して生活することができるよう、国民健康保険や後期高齢者医療制度、国民年金の健全かつ持続可能な運営と適正なサービスの提供に努めます。また、生活困窮者に対しては、生活保護制度の適正な運用を行うとともに、就労支援など自立に向けた相談・指導体制の充実を図ります。	
担当課	保護課、医療年金課		

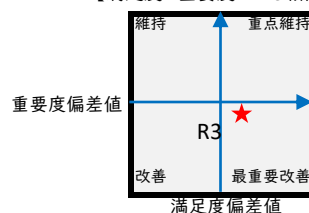


目標達成状況

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	順位 (H30⇒R3)
満足度	15.7	16		15位/32施策⇒15位/32施策
重要度	0.498	0.548		9位/32施策⇒6位/32施策
改善度	5.24	4.65		9位/32施策⇒11位/32施策

【満足度と重要度による相関図】



- ・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合(数値が大きくなるほど満足度の割合が高くなります。)[0～100]
- ・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化(数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。)[-1～1]
- ・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化(数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。)[2018年調査:-22.88～20.26]

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	評価
国民健康保険料収納率	93.6% (H28)	↗	[国民健康保険料の現年度収納額]÷[現年度調定額]×100	96.3%	96.6%	97.2%	96.6%	C
特定健康診査受診率	24.5% (H28)	↗	[特定健康診査受診者数]÷[対象者数]×100	25.3%	21.8%	25.5%	R5.10速報値発表	B
後期高齢者1人当たりの医療費	989,316円 (H28)	↘	[後期高齢者医療における医療費総額]÷[被保険者数]	1,025,048円	967,844円	995,541円	1,007,943円	C
生活サポートセンター「りんく」における相談件数	194件 (H28)	↗	生活サポートセンター「りんく」における自立相談の新規相談件数	172件	277件	247件	180件	D
●成果指標の評価を4区分で評価(平均点)A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年度ともに向上 C:現状値より向上したが、昨年度より低下 A:現状値より低下したが昨年度より向上 現状値より低下したが、昨年度とほぼ同数 B:現状値及び昨年度とほぼ同数 D:現状値及び昨年度ともに低下				成果指標評価		2.0	B	

分析	<p>・市民意識調査における「満足度」は相対的に中程度にあり、本施策に対する満足度との関連性を示す「重要度」は上位に位置している。改善度は比較的高く、これまで以上に施策の推進が求められる。</p> <p>・国民健康保険料収納率の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響による賃金・給与の減少等に加え、物価、電気料等の高騰で、いわゆる「生活費」の支出増により保険料の支払いに影響があったこと、また、同様の要因により、口座の残高不足などによる差押金額の減少もあったと推測する。</p> <p>・健康診査受診率の速報値は例年10月に発表されるが、昨年度も、新型コロナウイルス感染症の影響や団塊の世代の後期高齢者医療制度への移行に伴う被保険者の大幅な減少もあったが、様々な取組みにより受診率は上昇した。しかしながら全道平均に比べ、かなり低く、更なる施策を講じる必要がある。</p> <p>・後期高齢者1人当たりの医療費については、近年、被保険者数は増加傾向であるが、令和2・3年度の医療費減少の要因については、主には新型コロナウイルス感染症に影響に伴う「受診控え」による特殊要因によるものと推察する。令和4年度の医療費については、被保険者数の増及び完全ではないものの受療行動が回復傾向となったことにより、1人当たり医療費の増要因と推察する。</p> <p>・生活サポートセンターりんくにおける新規相談件数は、令和2年度及び令和3年度は、社会福祉協議会が行う総合支援資金の再貸付等を受ける際に自立相談支援機関(りんく)による支援を受けることが要件となっていたため例外的に大幅増となっている。令和4年度は総合支援資金の再貸付等が終了となり、新規相談件数は平成27年度から令和元年度までの5年間の平均(176人)と同程度となっており、概ね順調に推移している。</p>
----	---

取組と成果	<p>・令和3年度より定期通院中を理由に特定健康診査を受診しない被保険者を対象とした「診療情報提供事業」を北海道モデル事業として実施し、提供された検査データをもとに受診率向上に取り組んだ。また、令和4年度は、新たな事業として北海道モデル事業により「薬剤師からの受診勧奨事業」を実施したことにより更に受診率が向上した。</p> <p>・生活サポートセンターりんくは、相談内容によって支援内容、支援の終結となる目標も異なることから、成果を判断することが難しい。問題を解決してもその後も本人の希望による面談等を行うこともあるが、不安を取り除き同意を得た上で随時支援を終結させている。目標の一つであることが多い「就労」に至った件数は、毎年25件から30件で推移しており、令和4年度は25件となっている。</p>
-------	---

現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・受診率は、新型コロナウイルス感染症や団塊の世代の後期高齢者医療制度への移行による被保険者の大幅な減少の影響もあったが、各種施策が功を奏し、令和3年度はコロナ禍前よりも上昇した。受診率をより一層向上させるためには、「診療情報提供事業」の同意率がかなり低いいため、本人同意率を高めることが重要となる。 ・生活サポートセンター「りんく」による生活困窮者の相談・支援は効果を上げているが、より多くの人にとってもらう必要がある。
-------	---

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、昨年度の事業を引き続き実施し、受診率向上により一層努める。また、「診療情報提供事業」の同意率向上を目指し、関係機関との協議・検討を行い、新たな事業の実施を目指す。 ・生活困窮者の相談・支援事業を継続するにあたっては、これまでも広報やポスター掲示、パンフレットの配布等のPRを行ってきたが、今後も効果的なPR方法を模索し実行していく必要がある。
--------	---

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価		
		達成度	有効性	効率性
生活困窮者自立促進支援事業 【保護課】	<ul style="list-style-type: none"> ・新規相談件数 180件 ・支援決定数 94件 ・就労開始者数 25人 ・就労準備支援事業 プログラム開催数 6種 延べ参加人数 505人 	B	A	B
生活保護運営事業 【保護課】	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断受診者数 121人 受診件数 401件 ・生活習慣病重症化予防指導 5人 ・保健師による指導 面接 2回 電話 6回 	C	B	B
特別会計国民健康保険費 【医療年金課】	<ul style="list-style-type: none"> ・国保被保険者特定健診受診件数 R3:3,178件 → R4:3,306件 ・電話勧奨件数 R3:8,888件 → R4:7,627件 特定健康診査等事業・保健衛生普及事業・データヘルス事業含む 	B	B	B
●重点事業の評価を4区分で評価(平均点) A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 【達成度】 【有効性】 【効率性】 A 十分である 非常に有効 改善の余地なし B 概ね十分である 有効 概ね効率が良い C やや不十分である やや有効でない 改善の余地あり D 不十分である 有効でない 大きく改善の余地あり		事業評価		3.0 B

事務事業一覧

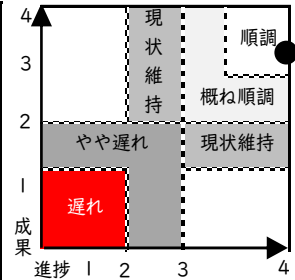
(単位:千円)

事務事業名	事業概要	事業費		
		上段:事業費 中段:職員数 下段:総事業費(人件費含む)		
		R2実績	R3実績	R4実績
1 生活困窮者自立促進支援事業 【保護課】	生活サポートセンター「りんく」で生活困窮者の相談受付・自立支援を行う。また、生活保護受給世帯等の小・中学生に対し、少人数学習教室により学習支援を行う。	25,537 (1.0人)	30,153 (1.0人)	28,256 (1.0人)
		32,737	37,153	35,356
2 国民年金推進事業 【医療年金課】	国民年金への理解促進と無年金者の解消に向けた適用対策推進のため、被保険者からの取得等届出を審査し、また、任意加入・脱退、免除申請書等の受理、受給権者の裁定請求等を審査して日本年金機構に報告を行っている。	2,590 (2.6人)	3,394 (2.6人)	2,566 (2.6人)
		21,310	22,114	21,026
3 後期高齢者医療事業 【医療年金課】	高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、後期高齢者医療制度の運営が適切かつ円滑に行われるよう、療養給付費を負担する。	1,173,026 (3.5人)	1,134,027 (3.5人)	1,176,168 (2.5人)
		1,198,226	1,158,527	1,193,918
4 生活保護運営事業 【保護課】	生活保護の適正な実施及び運用を行う。 【重点:健康管理支援事業】糖尿病等の生活習慣病の重症化予防に向け、健康管理支援に取り組み、健康寿命の延伸と自立の助長を目指す。	96,347 (25.0人)	99,600 (25.0人)	77,238 (25.0人)
		276,347	274,600	254,738
5 生活保護費給付事業 【保護課】	生活保護法に基づいた適正な生活保護費を給付する。	3,041,987 (0.0人)	2,999,781 (0.0人)	2,896,540 (0.0人)
		3,041,987	2,999,781	2,896,540
6 特別会計国民健康保険費 【医療年金課】	国保被保険者の疾病の予防・早期発見のため、特定健診・がん検診の無料化。 対象者:40歳以上の国保被保険者	39,651 (1.0人)	45,933 (1.0人)	48,880 (1.0人)
		46,851	53,133	55,980
7 特別会計後期高齢者医療費 【医療年金課】	高齢者の医療の確保に関する法律に基づく後期高齢者医療制度に係る各種受付業務や賦課徴収事務を行う。	1,396,276 (0.0人)	1,411,373 (0.0人)	1,446,570 (0.0人)
		1,396,276	1,411,373	1,446,570

【外部評価意見】	
----------	--

令和5年度 岩見沢市施策評価シート

基本目標	2	みんなが健康で元気に暮らせるまち	評価結果
基本施策	6	地域医療体制の充実	
	南空知圏域全体において専門性の高い良質な医療を確保できるよう、病床機能の分化を図り、医療機関相互の役割分担と連携を促進することにより、医療ニーズに即し、地域で完結する医療提供体制の構築を目指すとともに、市立総合病院は、その中核的な役割を担う基幹病院として、高度医療等を提供する体制の充実に向けた取組を推進します。 また、夜間や休日における急病患者に対する適切な医療の確保に努めます。		
担当課	健康づくり推進課、管理課、新病院整備室		外部評価対象施策

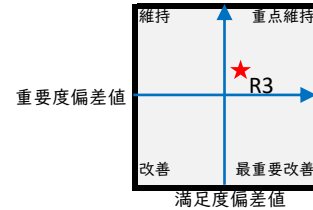


目標達成状況

【市民意識調査結果】

年度	H30 (2018)	R3 (2021)	R6 (2024)	順位 (H30⇒R3)
満足度	22.5	20.3		7位/32施策⇒9位/32施策
重要度	0.467	0.532		15位/32施策⇒8位/32施策
改善度	-3.39	-1.79		23位/32施策⇒19位/32施策

【満足度と重要度による相関図】



- ・満足度～全回答数に占める満足と回答した割合（数値が大きくなるほど満足度の割合が高くなります。）【0～100】
- ・重要度～施策全体の満足度と個別施策の満足度の相関関係により指標化（数値が大きくなるほど施策全体の満足度との関係性が強く、重要度が高くなります。）【-1～1】
- ・改善度～重要度に対する満足度の水準から改善の必要性を指標化（数値が大きくなるほど改善の必要性は高く、数値がマイナスの場合は改善の必要性が低いことを示します。）【2018年調査：-22.88～20.26】

【成果指標】

指標名	現状値	方向性	指標の説明	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	評価
人口10万人当たりの医師数	160人 (H28)	↗	[岩見沢市医師会に属する医師数]× [10万人]÷[住民基本台帳人口]	154人	150人	148人	156人	A
市立病院における経常収支比率	99.20% (H28)	↗	[病院事業収益-特別利益]÷[病院事業 費用-特別損失]×100	98.00%	102.12%	102.27%	98.60%	D
市立病院における後発医薬品の数量シェア	新規	↗	[後発医薬品の数量]÷[後発医薬品のある先 発医薬品の数量+後発医薬品の数量]	71.79%	82.97%	84.01%	84.81%	A
●成果指標の評価を4区に分て評価（平均点）A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 A:現状値及び昨年度ともに向上 A:現状値より低下したが昨年度より向上 B:現状値及び昨年度とほぼ同数 C:現状値より向上したが、昨年度より低下 現状値より低下したが、昨年度とほぼ同数 D:現状値及び昨年度ともに低下				成果指標評価		3.0	A	

分析	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査における「満足度」は相対的に高く、本施策に対する満足度との関連性を示す「重要度」は上位に位置している。改善度は比較的高く、これまで以上に施策の推進が求められる。 ・医師の高齢化に伴い、地域医療の体制確保に必要な医師数は減少傾向にある。 ・新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、ワクチン接種の促進や発熱外来の設置、個人防護具の整備等の院内感染防止対策を講じながら、良質な医療提供による各種加算の取得、後発医薬品への切り替え（国の目標値である数量シェア80%を超える84.81%）を行い、通常どおりの診療・検査体制の確保に努めたが、院内クラスターの発生等による入院制限や診療制限により、前年度と比較し、医業収益が減少となり、国から医療機関における感染症患者等の病床確保に対する補助金等もあったが、経常収支比率98.60%と現状値を下回る結果となった。
----	---

取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱外来の設置や、国補助を活用した個人防護具の整備等の院内感染防止対策を講じながら、通常どおりの診療・検査体制を確保したこと等により、医業収益の増に努めたが、院内クラスターの発生等による入院制限や診療制限により、355,738千円の減となった。 ・費用に関しては、昇給及び看護職員等処遇改善手当等の増や電気料金値上げに伴う光熱水費の増などによる経費の増加に伴い、経常費用で170,655千円の増加となった。
-------	---

現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医師数については、医師の高齢化等により減少傾向が続いており、医師の確保が難しい状況にある。 ・後発医薬品のシェアについては、目標を達成できているが、経常収支比率については目標を達成できなかった。今後は入院単価や病床利用率の向上などの収益確保と、引き続き後発医薬品への移行促進や医療材料の在庫調整などの費用縮減の取組を進めていく必要がある。 ・医師会に加え、歯科医師会、薬剤師会とも連携し、地域医療の確保に勤めているものの、医師については高齢化が進み、体制維持は年々難しいものとなってきている。特に夜間や休日の救急体制については、近隣自治体と広域で行うことも考えられる。
-------	---

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでと同様に、医師会等と連携を図り、地域医療体制の確保に努める。 ・一般病床の入院単価を黒字の類似規模病院の平均単価を上回る単価へアップさせる取組みや病棟の再編等を検討し、病床利用率の向上を図ることにより、収益の増収を図る。 ・医薬品を含む医療材料の在庫調整や定数の見直し、医薬品等の適正価格購入、委託業務の内容や発注方法の見直し等を行い、費用の削減を図る。 ・新病院建設基本計画に基づき、新病院の整備を進める。 ・経営強化プランを策定し、十分な医師確保や必要な施設・設備の維持管理等を進めていく。
--------	--

重点事業の実績

事務事業名	事業の実績	評価																	
		達成度	有効性	効率性															
医療機械器具等整備事業 【管理課】	<ul style="list-style-type: none"> ・良質な医療提供を行うため、医療機械器具等の整備を行い、診療体制の充実を図った。 →放射線治療計画装置、内視鏡下腹腔鏡システムほか 168,117千円 	A	A	A															
新型コロナウイルス感染症医療体制確保事業 【管理課】	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱外来の設置やリモート面会サービスの実施、また个人防护具の整備や玄関等における検温スクリーニングの実施等により、院内感染防止を図った。 →発熱外来に係る経費(プレハブ賃借料及び受付業務委託料等) 12,637千円 个人防护具等の院内感染防止対策備品の購入等 17,203千円 ・感染症患者等の対応を行う医療従事者に対し、特殊勤務手当を支給した。また定期PCR検査を行い、感染防止及び医療従事者の心のケアを行った。 →特殊勤務手当の支給及び定期PCR検査の実施 61,322千円 	A	A	A															
新市立総合病院建設事業 【新病院整備室】	<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人労働者健康安全機構との間で、北海道中央労災病院との統合に係る基本合意書を締結(令和3年7月)した。 ・新病院の基本方針や標榜診療科・病床数、建設地、関連施設の方向性等をまとめた新病院建設基本計画を策定(令和4年9月)した。 	A	A	A															
<ul style="list-style-type: none"> ●重点事業の評価を4区分で評価(平均点) A:4点 B:3点 C:2点 D:1点 <table border="0"> <tr> <td>【達成度】</td> <td>【有効性】</td> <td>【効率性】</td> </tr> <tr> <td>A 十分である</td> <td>非常に有効</td> <td>改善の余地なし</td> </tr> <tr> <td>B 概ね十分である</td> <td>有効</td> <td>概ね効率が良い</td> </tr> <tr> <td>C やや不十分である</td> <td>やや有効でない</td> <td>改善の余地あり</td> </tr> <tr> <td>D 不十分である</td> <td>有効でない</td> <td>大きく改善の余地あり</td> </tr> </table>		【達成度】	【有効性】	【効率性】	A 十分である	非常に有効	改善の余地なし	B 概ね十分である	有効	概ね効率が良い	C やや不十分である	やや有効でない	改善の余地あり	D 不十分である	有効でない	大きく改善の余地あり	事業評価	4.0	A
【達成度】	【有効性】	【効率性】																	
A 十分である	非常に有効	改善の余地なし																	
B 概ね十分である	有効	概ね効率が良い																	
C やや不十分である	やや有効でない	改善の余地あり																	
D 不十分である	有効でない	大きく改善の余地あり																	

事務事業一覧

(単位:千円)

事務事業名	事業概要	事業費		
		上段:事業費 中段:職員数 下段:総事業費(人件費含む)		
		R2実績	R3実績	R4実績
1 休日・夜間等診療対策事業 【健康づくり推進課】	休日・夜間における急病者に対応するため、岩見沢市夜間急病センターの運営、在宅当番医制の実施及び南空知医療圏域における小児救急医療体制を整備し、地域住民に対し休日・夜間における医療体制を確保する。	84,131 (0.7人)	84,956 (0.7人)	87,442 (0.7人)
		89,171	89,856	92,412
2 診療所運営事業 【健康づくり推進課】	万字・毛陽・美流渡地区の医療の充実を推進するとともに、地域連絡会を通じて、住民、医療機関、行政等が連携した高齢者等の在宅生活を支援。	13,342 (0.0人)	13,157 (0.0人)	13,454 (0.0人)
		13,342	13,157	13,454
3 病院事業会計 【管理課】	市立総合病院及び栗沢病院の運営	7,144,289 (544.0人)	6,969,930 (542.0人)	7,042,394 (537.0人)
		12,586,627	12,492,575	12,663,230

【外部評価意見】	<p>昨年の年間出生数が300人を下回ったという現状をうけ、医師等の医療提供体制だけでなく、学校の適正配置など、あらゆる面において、将来を見据えた行政運営が必要である。</p>
----------	--